

2027年卒の採用広報が3月1日に解禁された。企業の採用意欲の高い状態が続く中、学生たちはどのように活動を進めているのだろうか。キャリタス就活・学生モニターを対象に、解禁直後の就職活動状況や意識について調査を行った。

1. エントリー社数と会社説明会の参加社数

- 一人あたりのエントリー社数の平均は17.6社。前年同期(19.5社)より約2社減
- 説明会参加社数は、会場型4.7社、オンライン12.5社

2. 新たな企業の説明会に求めること

- 会場型は、「社員と話せる場が設けられている」が最多、次点は「選考情報が得られる」
- オンライン形式は、「選考情報が得られる」「部門・職種の詳細が聞ける」の順

3. 解禁時の志望業界

- 1位「インターネットサービス」、2位「銀行」、3位「情報処理・ソフトウェア」

4. 選考試験の受験状況

- ES提出、筆記試験、面接試験とも8割が経験。最終面接は6割強が経験
- ES提出社数は平均7.3社。面接は平均4.8社、最終面接1.8社。いずれも前年実績を上回る

5. 3月1日現在の内定状況^(※)

- 内定率は51.7%。広報解禁のタイミングで5割を上回るのは初めて
- 就職先を決定し活動を終了したのはモニター全体の11.1%

6. 就職活動継続学生の動向

- 今後の活動方針、「エントリー企業中心」(45.4%)、「新たな企業を探す」(32.6%)
- 就職活動を終えたい時期は、今年も選考解禁後の「6月後半」が最多(17.1%)

7. 希望する初任給額

- 過半数が初任給の額によって企業への関心や志望度に变化
- 最低限必要な額は平均24.2万円、好条件と感じる金額は平均29.1万円。毎年1万円上昇

8. 初期配属確約採用の影響度

- 配属エリアが「決まっていないと内定を承諾できない」が3割超。5年前より大幅に増加
- 配属部署・職種は「決まっていると承諾しやすい」が6割台

※「インターンシップ」に限定せず、オープン・カンパニー等も含めて尋ねた
※「内定」には、内々定を含む

調査概要

- 調査対象：2027年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
回答者数：1,033人（文系男子205人、文系女子486人、理系男子183人、理系女子159人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2026年3月1日～5日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2027
調査実施：株式会社キャリタス/キャリタスリサーチ

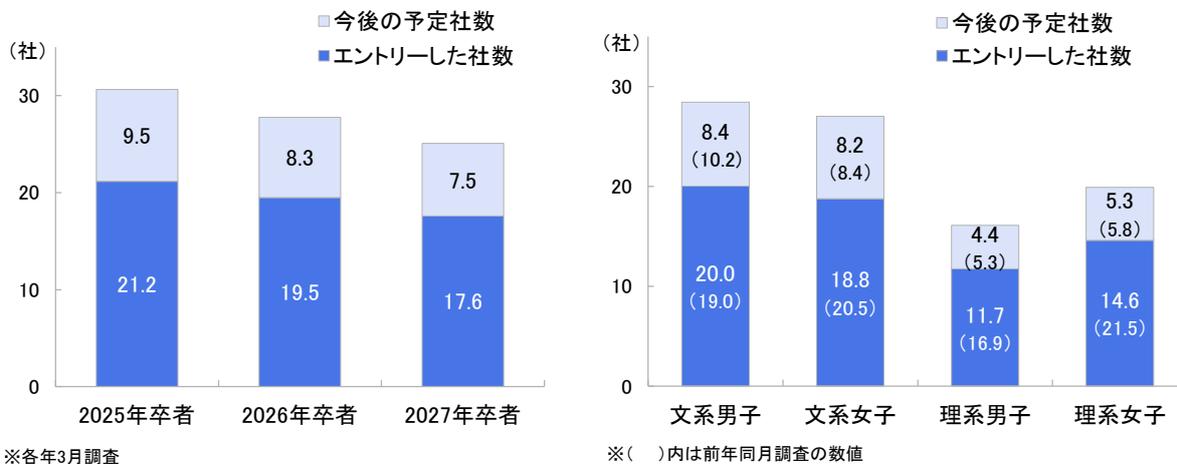
1. エントリー社数と会社説明会の参加社数

3月1日時点でエントリーした社数と、今後の予定社数を尋ねた。

一人あたりのエントリー社数の平均は17.6社で、前年同期実績(19.5社)を1.9社下回った。今後のエントリー予定社数も平均7.5社と、前年調査(8.3社)よりも1.2社少ない。早期に接点を持った企業の選考が進む中で(6ページ)、新しい企業に目が向きにくくなっているとみられる。

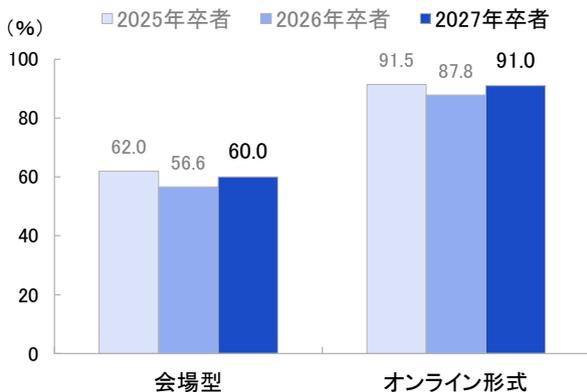
これを文理男女別に確認すると、文系のエントリー社数は前年実績と大きく変わらないものの、理系は前年を大きく下回る(男子:5.2社減、女子:6.9社減)。今後のエントリー予定社数を合わせると、文系は平均30社近いのに対し、理系は20社未満。

<エントリー社数>

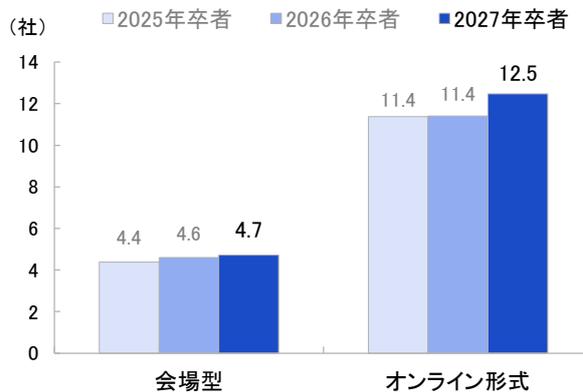


会社説明会(個別企業のセミナー)の参加状況を、開催形式ごとに確認した。「会場型」は全体の6割(60.0%)、「オンライン形式(WEBセミナー)」は9割超(91.0%)が参加経験を持つ。社数を見ると、会場型が平均4.7社、オンライン形式は前年を約1社上回り、平均12.5社。

<会社説明会 参加・視聴経験>



<会社説明会 参加・視聴社数>



<会社説明会 参加・視聴社数/属性別>

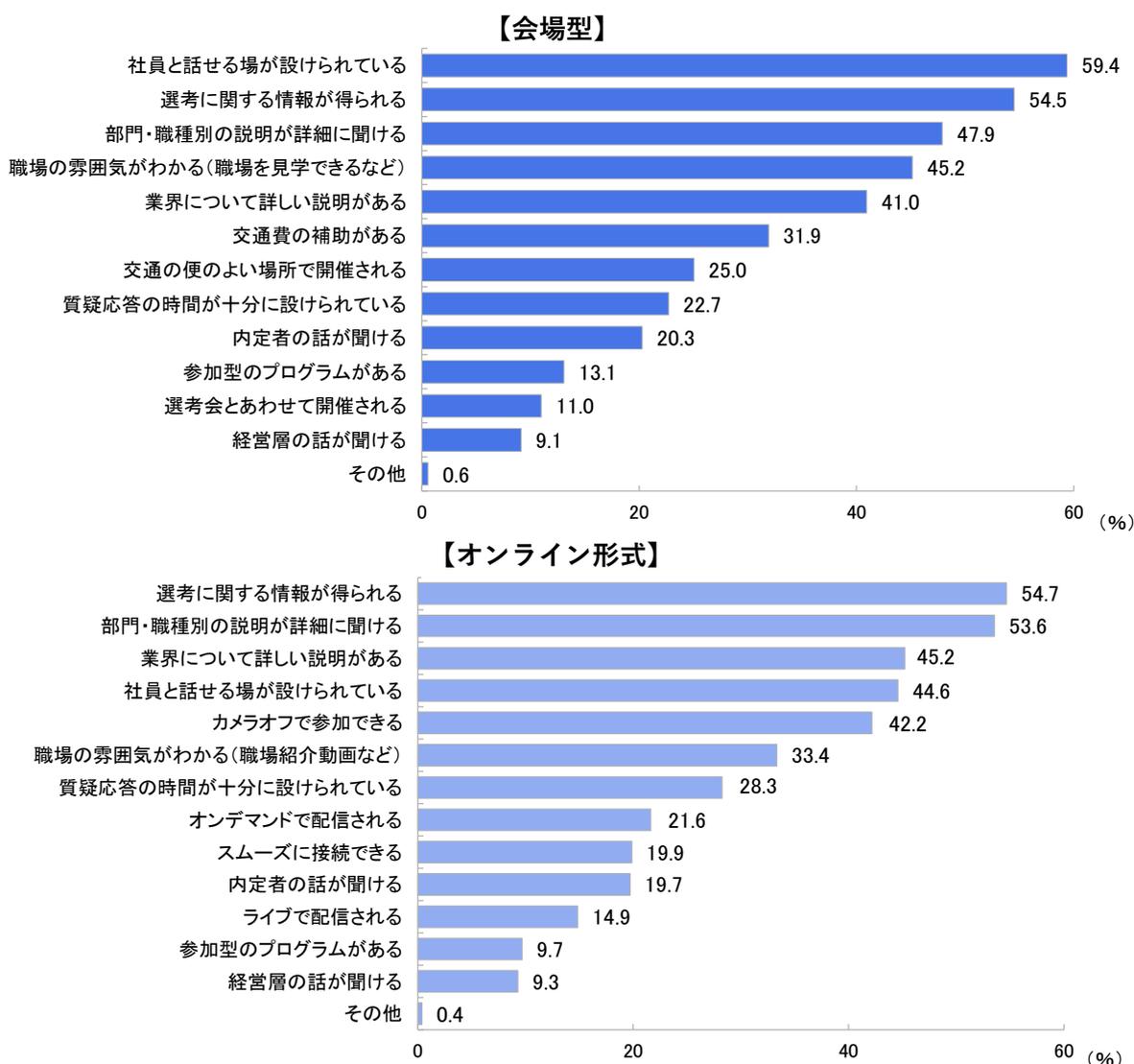
	(社)					
	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
会場型参加社数	4.7	4.6	5.4	4.9	3.0	3.9
オンライン形式視聴社数	12.5	11.4	11.6	14.9	8.8	10.9

2. 新たな企業の説明会に求めること

これまで接点のなかった新しい企業の説明会に参加する場合に、どのようなものに参加したいかを形式別に尋ねた。

「選考に関する情報が得られる」が両形式とも5割を超える。広報解禁を迎え、選考を強く意識している様子が見て取れる。会場型は「社員と話せる場が設けられている」が最も多く(59.4%)、オンライン形式でも4割を超えている(44.6%)。社員と話すことにより、企業の雰囲気や社風を感じ取った上で、選考に進むかどうか判断したいという学生が多いようだ。

＜新たな企業の説明会に求めること（形式別）＞



■新たな企業の説明会に求めるもの

- 対面型は職場の雰囲気がわかるようなものが好ましい。オンライン形式は情報をとにかく得たい気持ち強い。 <理系女子>
- 業界・企業理解を深める上で職種ごとの仕事内容やキャリアパスについての話は聞きたい。 <文系女子>
- 就活解禁後だからこそ、選考に直結するよう有意義な説明会に参加したい。 <文系女子>
- 選考方法について具体的に説明があるとうれしい。 <文系男子>
- 移動していることが多いので、その時間で聞けるようにカメラオフの参加が許されるとありがたい。 <文系女子>

3. 解禁時の志望業界

解禁時点でのどのような業界を志望しているのかを確認したい。

志望業界を「決めている」学生は92.7%。2月調査(86.5%)から6.2ポイント増え、9割を超えた。

「決めている」と回答した学生に具体的な業界を尋ねると(40業界から5つまで選択)、最も多いのは「情報・インターネットサービス」(18.2%)。2位は「銀行」(17.2%)、3位に「情報処理・ソフトウェア」(16.5%)が続く。上位業界の顔ぶれは前年と大きく変わらない。

文理別に見ると、文系は男女ともに「銀行」が1位で、「官公庁・団体」が2位。理系はITとメーカーの順位が高いのが特徴的。

<志望業界の決定状況>

(%)

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
業界を決めている	92.7	92.1	92.2	90.7	94.0	98.7
業界を決めていない	7.3	7.9	7.8	9.3	6.0	1.3

<志望業界(上位20業界)>

※5つまで選択 (%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1 情報・インターネットサービス②	18.2	銀行 25.9	銀行 18.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 30.8	医薬品・医療関連・化粧品 22.3
2 銀行③	17.2	官公庁・団体 19.0	官公庁・団体 17.7	情報・インターネットサービス 27.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 21.7
3 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト①	16.5	情報・インターネットサービス 15.3	情報・インターネットサービス 16.3	電子・電機 20.3	水産・食品 20.4
4 官公庁・団体④	15.1	調査・コンサルタント 13.2	マスコミ 15.9	素材・化学 12.8	素材・化学 20.4
5 水産・食品⑥	12.0	建設・住宅・不動産 11.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 15.0	自動車・輸送用機器 11.6	情報・インターネットサービス 19.7
6 建設・住宅・不動産⑧	10.9	マスコミ 11.1	水産・食品 13.2	建設・住宅・不動産 11.6	建設・住宅・不動産 13.4
7 マスコミ⑬	10.8	エンターテインメント 11.1	運輸・倉庫 10.9	調査・コンサルタント 10.5	電子・電機 9.6
8 調査・コンサルタント⑩	10.0	保険 11.1	ホテル・旅行 10.7	機械・プラントエンジニアリング 10.5	官公庁・団体 9.6
9 電子・電機⑤	9.4	信用金庫・労働金庫・信用組合 10.6	商社(専門) 10.4	医薬品・医療関連・化粧品 9.3	精密機器・医療用機器 9.3
10 運輸・倉庫⑮	9.1	運輸・倉庫 10.6	エンターテインメント 9.5	通信関連 9.5	エネルギー 8.9
11 素材・化学⑦	8.4	商社(総合) 10.1	建設・住宅・不動産 9.1	エネルギー 8.1	通信関連 7.0
12 エンターテインメント⑫	8.4	水産・食品 10.1	保険 8.6	鉄鋼・非鉄・金属製品 8.6	調査・コンサルタント 7.0
13 医薬品・医療関連・化粧品⑨	7.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 9.5	調査・コンサルタント 8.2	精密機器・医療用機器 8.2	自動車・輸送用機器 7.6
14 エネルギー⑫	7.9	商社(専門) 9.5	教育 8.2	銀行 8.2	機械・プラントエンジニアリング 5.7
15 商社(専門)⑯	7.7	証券・投信・投資顧問 9.0	その他サービス 9.0	運輸・倉庫 7.7	銀行 5.8
16 商社(総合)⑪	7.2	エネルギー 7.9	エネルギー 7.5	証券・投信・投資顧問 7.5	銀行 5.1
17 保険⑰	7.2	人材サービス・人材紹介・人材派遣 7.9	人材サービス・人材紹介・人材派遣 7.3	農業・林業・鉱業 7.3	農業・林業・鉱業 5.2
18 通信関連⑱	6.7	電子・電機 7.4	医薬品・医療関連・化粧品 7.4	官公庁・団体 6.8	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 4.5
19 自動車・輸送用機器⑭	6.4	通信関連 6.9	医薬品・医療関連・化粧品 7.4	官公庁・団体 6.8	運輸・倉庫 4.7
20 信用金庫・労働金庫・信用組合⑬	6.3	ホテル・旅行 6.3	信用金庫・労働金庫・信用組合 6.6	水産・食品 6.8	エンターテインメント 3.8
		信販・クレジット・ファイナンス 6.3		マスコミ 6.6	商社(総合) 4.1
				商社(総合) 6.6	鉄鋼・非鉄・金属製品 4.1

※○の中の数字は前年同期調査の全体順位 ※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

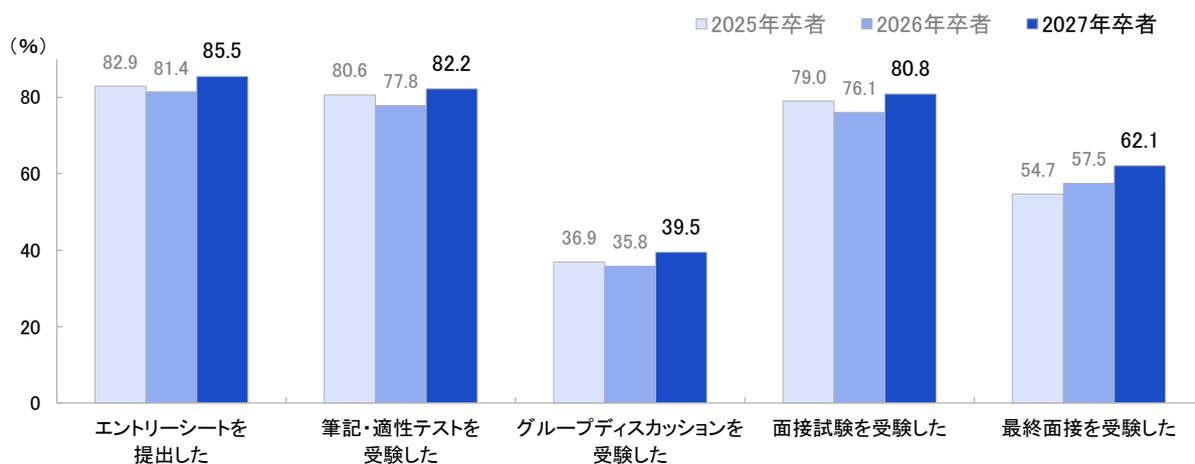
4. 選考試験の受験状況

選考試験（本選考）の受験状況については、選考の受験率・社数ともに前年同期実績を上回っており、早いペースで選考が進んでいる様子が見て取れる。

エントリーシート（ES）を提出した学生は全体の85.5%。筆記・適性テストは82.2%、面接は80.8%と、いずれも8割を超えている。最終面接については全体の6割超がすでに経験したと回答（62.1%）。

受験社数に目を向けると、ESの平均提出社数は7.3社で、前年同期（6.9社）をやや上回る。筆記試験、面接の受験社数もそれぞれ前年を上回っている。

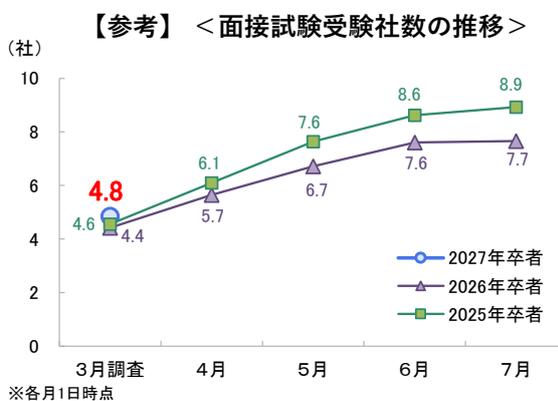
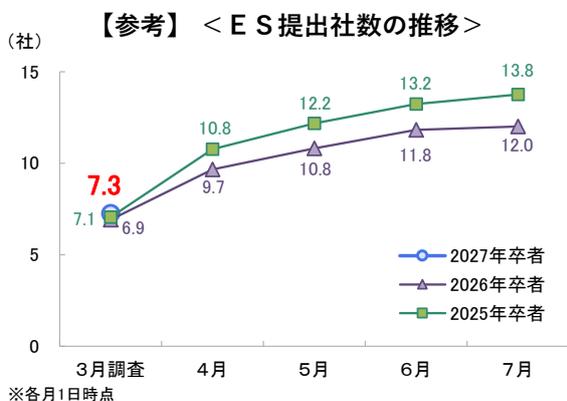
<選考試験の受験状況>



<選考試験の受験社数>

	全体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
	今年	前年全体				
エントリーシート	7.3	6.9	7.4	7.5	6.0	7.6
筆記・適性テスト	5.8	5.5	5.9	5.8	5.0	6.3
グループディスカッション	2.4	2.4	3.0	1.9	2.4	2.4
面接試験	4.8	4.4	5.3	4.8	4.2	4.5
最終面接	1.8	1.6	1.8	1.6	2.0	2.0

※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出。それ以外は、それぞれ受験者を分母に算出



5. 3月1日現在の内定状況

3月1日で内定を得ている学生は全体の51.7%。前回調査(46.6%、2月調査)からの1カ月間に5.1ポイント上昇し、就活モニターの半数以上が早くも内定を手にしていった。前年同期実績(47.7%)を4ポイント上回っており、3月の就活解禁のタイミングで内定率が5割を超えるのは初めて。現在の採用日程ルールが11年目を数える中で、早期化が一層進んでいる様子が見て取れる。現時点で内定を得た企業の7割近く(68.4%)が、インターンシップ等のプログラムに参加していた企業だ。

内定率は文系より理系で高く、とりわけ理系女子は7割に達している。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは21.6%。大半は内定を保持しながら就職活動を継続している。モニター学生全体を分母にとると就活終了者(就職先決定)の割合は11.1%で、多くの学生にとって本番はこれからと言える(グラフは次ページに掲載)。ただ、理系学生は就職決定率も文系に比べ高く、2割に上る(22.2%)。

<3月1日現在の内定状況>

*「内定」には、内々定を含む

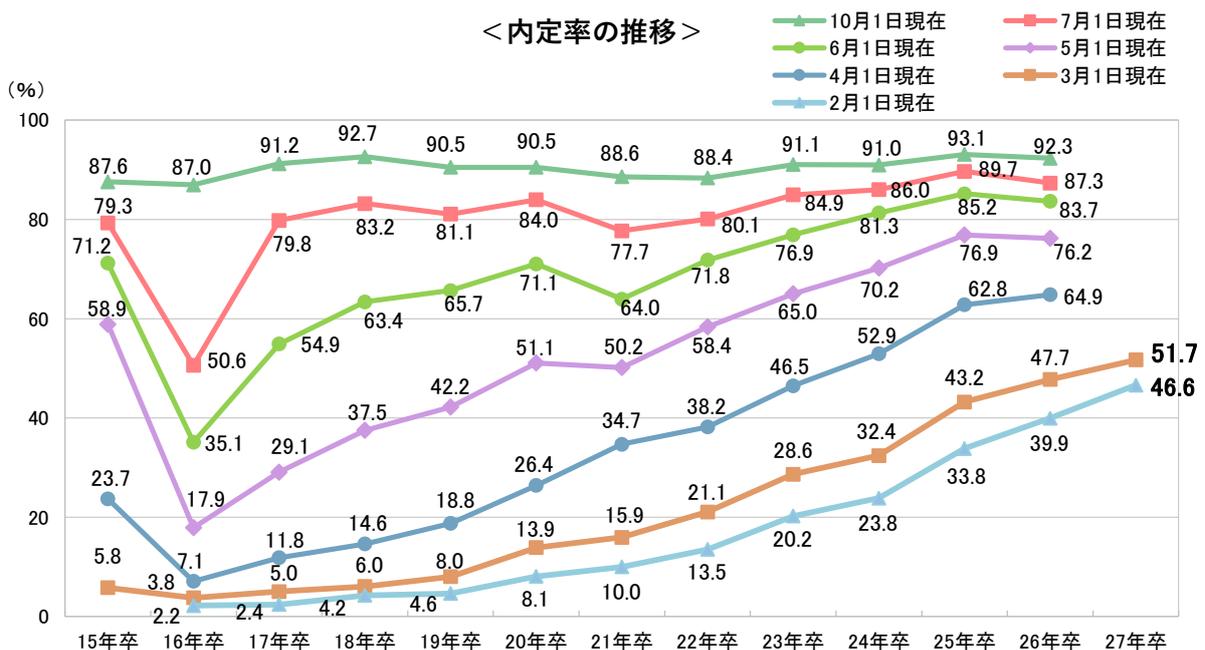
(%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	
内定あり	51.7 (47.7)	48.3 (41.3)	46.7 (44.9)	56.3 (59.0)	70.4 (58.2)	
内定なし	48.3 (52.3)	51.7 (58.7)	53.3 (55.1)	43.7 (41.0)	29.6 (41.8)	
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	21.6 (22.4)	16.2 (19.4)	13.2 (15.1)	39.8 (31.9)	31.3 (31.5)
	活動は終了したが複数内定保持	6.1 (5.0)	7.1 (6.5)	5.7 (4.1)	4.9 (4.3)	6.3 (5.4)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.5 (0.9)	1.0 (2.2)	0.0 (0.5)	0.0 (0.0)	0.9 (1.1)
	就職活動継続	71.9 (71.7)	75.8 (72.0)	81.1 (80.4)	55.3 (63.8)	61.6 (62.0)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均	1.7 (1.7)	1.8 (1.7)	1.7 (1.7)	1.7 (1.9)	1.6 (1.6)

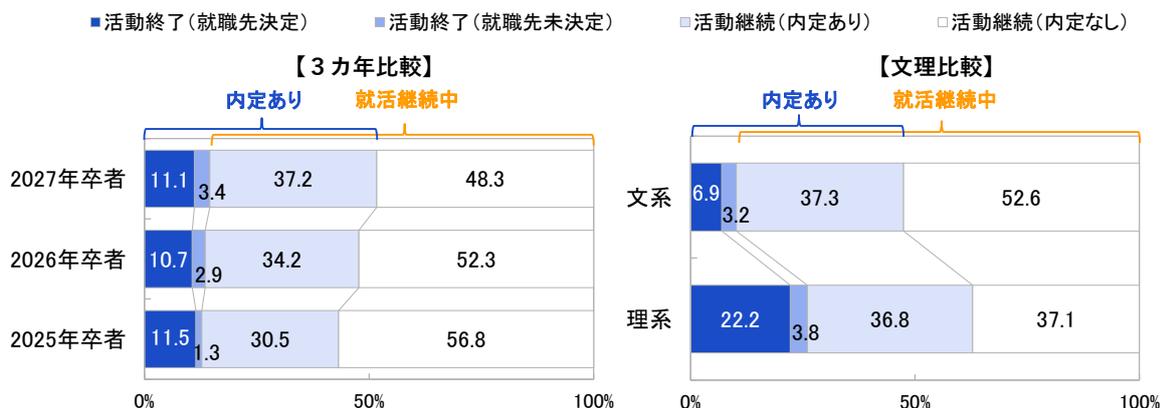
※ () 内は前年(3月1日現在)の数値

<内定率の推移>



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~27卒は6月

< 活動状況の分布 >



内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。4ページで確認した志望業界で上位に挙げた「情報処理・ソフトウェア」が内定業界の1位。文理問わず多くの内定が出ている様子が見て取れる。全体の2位は「建設・住宅・不動産」で、3位「調査・コンサルタント」の順。動きの早い業界が上位に並ぶ。

< 内定を得た業界 (上位5業界) >

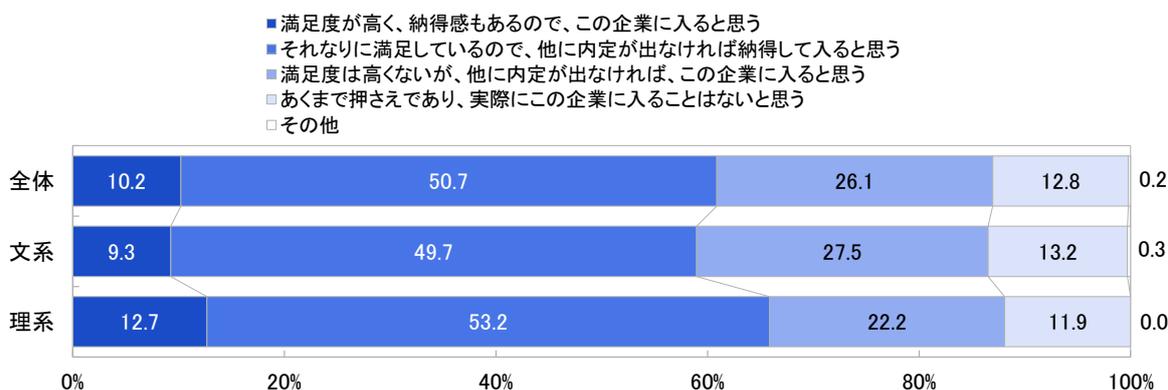
		全 体		文 系		理 系	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ①	28.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	26.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	31.6	
2	建設・住宅・不動産 ③	15.6	調査・コンサルタント	14.1	建設・住宅・不動産	22.8	
3	調査・コンサルタント ②	12.7	建設・住宅・不動産	12.0	電子・電機	14.0	
4	人材サービス・人材紹介・人材派遣 ④	9.1	その他サービス	10.6	調査・コンサルタント	9.8	
5	その他サービス ⑧	8.9	人材サービス・人材紹介・人材派遣	9.9	情報・インターネットサービス	8.8	

※○の中の数字は前年同期調査の全体順位

※「その他サービス」＝介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

内定を持ちながら就職活動をしている学生(全体の37.2%)に、内定企業をどう位置づけているのかを尋ねた。「満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う」と、ほぼ入社を決めているのは約1割(10.2%)。「それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う」という回答が半数を占める(50.7%)。入社に前向きながらも、本命企業の結果次第という学生が多いことがわかる。

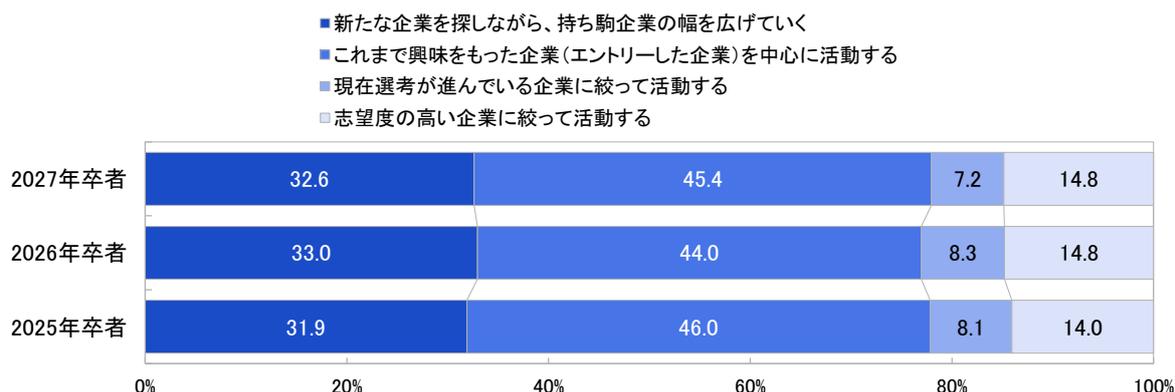
< 内定を得ている企業の位置づけ >



6. 就職活動継続学生の動向

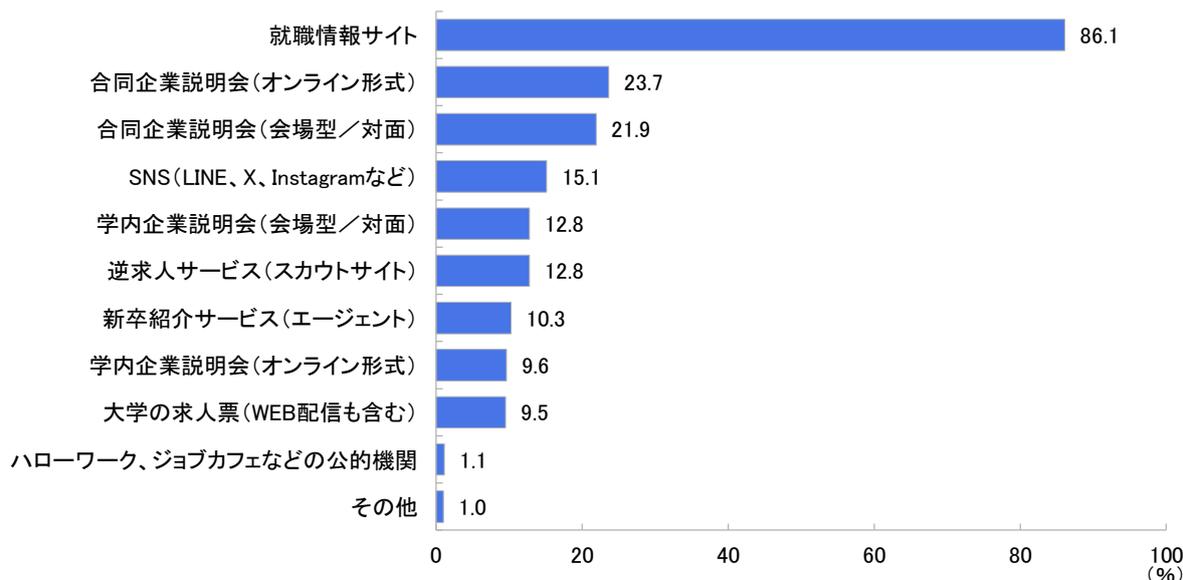
内定保持者を含め就職活動を継続している学生（全体の85.5%）に、就職活動をどのように進めていくかという方針・戦略を尋ねた。最も多いのは、「これまでに興味をもった企業（エントリーした企業）を中心に活動する」（45.4%）で、「新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく」は32.6%が選んだ。選考が進む中、受験企業を絞って活動する学生がいる一方で、約3人に1人は新たな企業を探し、持ち駒とする企業の幅を広げたいと考えていることがわかる。

<今後の就職活動の方針・戦略>



今後新たな企業へのエントリーを予定している学生に、どのような手段（ツール）で企業を探しているのか尋ねた。「就職情報サイト」が圧倒的に多く、8割超が企業探しに活用したいと回答した（86.1%）。次いで、「合同企業説明会」がオンライン形式、会場型ともに2割強で続く。次に多いのはSNS（15.1%）で、以降はポイントが分散している。

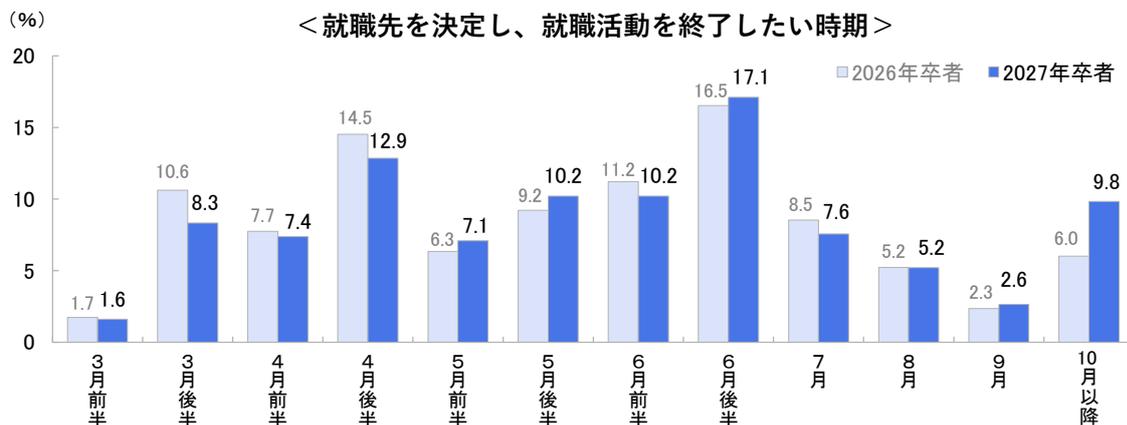
<新たな企業を探す手段>



○夏のインターンシップは割と興味のある業界に絞ってエントリーをしていたが、せっかくの機会なのでもっと広くたくさんしてもいいかなと思った。 <理系男子>

○このタイミングだからこそ、さまざまな企業や業界を知れることに関しては貴重な機会面で面白さを感じる。 <文系女子>

就職先を決定して就職活動を終了したい時期を尋ねた。最も多いのは「6月後半」(17.1%)で前年同期調査より0.6ポイント増加。ここまでかなり早いペースで進行しているものの、選考解禁後の6月を終了時期の目安にしている学生が少なくない。また、前年に比べ3月、4月のポイントが減少している一方、10月以降の割合が増加している。早期の終了を目指すよりも、納得がいくまで続けたいと考える学生が増えていることがうかがえる。



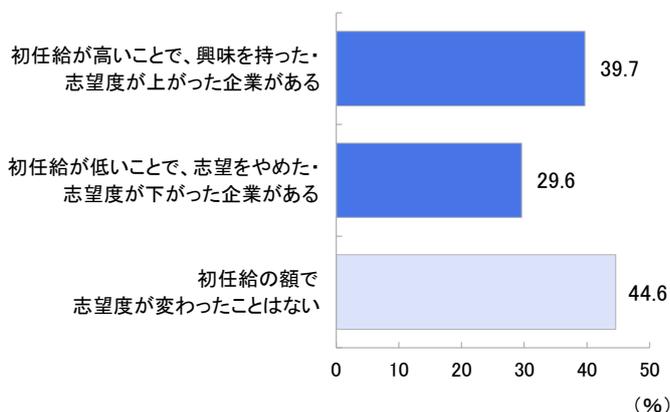
- 夏ごろまで面接がありそうなので、引き続き頑張る。春休みで周りの様子がよく分からないため、少し全体の様子が気になってきた。 <文系男子>
- 早く終わらせたい気持ちと、納得いくまでやり切らないと悔いが残るのではという気持ち。 <文系女子>

7. 希望する初任給額

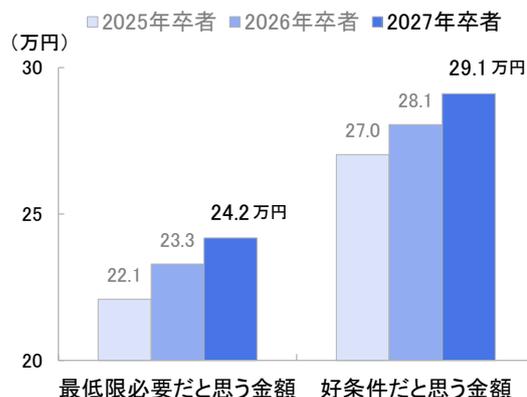
初任給の額によってその企業への関心や志望度が変わった経験があるかを尋ねた。「初任給が高いことで、興味を持った・志望度が上がった企業がある」という学生は約4割(39.7%)。反対に「初任給が低いことで、志望をやめた・志望度が下がった企業がある」人は約3割(29.6%)。初任給によって志望度や関心が変わった経験を持つ学生は半数を超える(55.4%)。

続けて、この金額より低いと応募を見送るという「最低限必要だと思う額」と、「好条件だと思う額」に分けて、各種手当を含む月額を尋ねた。「最低限必要だと思う額」の平均は24.2万円。「好条件だと思う額」は平均29.1万円。3カ年で見ると、どちらも毎年約1万円ずつ上昇している。

＜初任給によって志望度が変わった経験＞



＜希望する初任給の額／平均＞



8. 初期配属確約採用の影響度

入社後の最初の配属先が決まっていることが、内定承諾の意思決定に影響するかどうかを、部署・職種・エリアについてそれぞれ尋ねた。

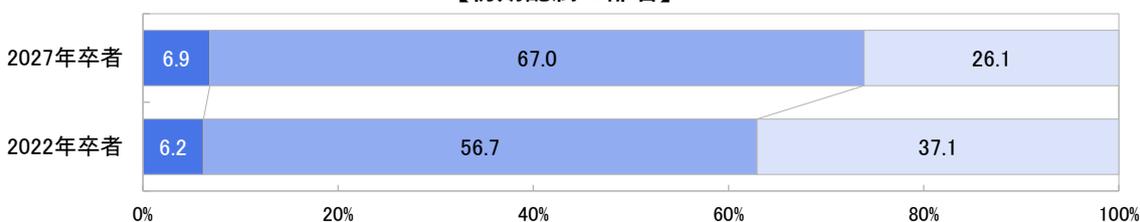
「決まっていないと内定承諾できない」の割合が最も高い項目は「初期配属のエリア」で、3割超(30.9%)。「決まっていると承諾しやすい」を合わせて85.1%が意思決定に影響すると回答した。最も低い「初期配属の部署」でも、意思決定に影響するという回答は合わせて7割を超える(計73.9%)。自分の働く姿をイメージしやすいので安心して承諾できるという意見が多く挙がった。

5年前の2022年卒者の調査と比較すると、いずれの項目でも「意思決定には影響しない」が大幅に減少し、初期配属確約の影響度が高まった様子が読み取れる。複数内定を得やすい環境になったことや、それに伴い初期配属を確約した募集をする企業が増えたことなどが影響していると考えられる。

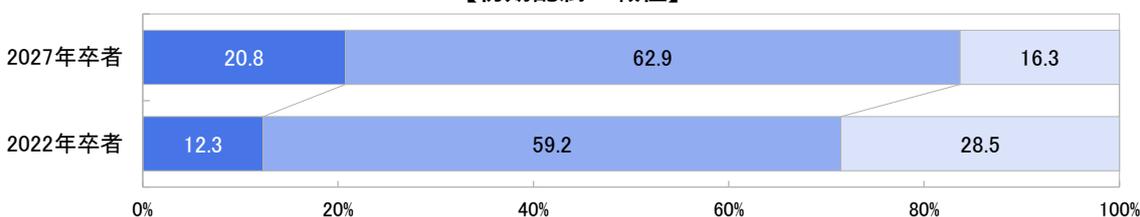
<入社後の初期配属が決まっていることが内定承諾に影響するか>

■ 決まっていないと承諾できない ■ 決まっていると承諾しやすい ■ 意思決定には影響しない

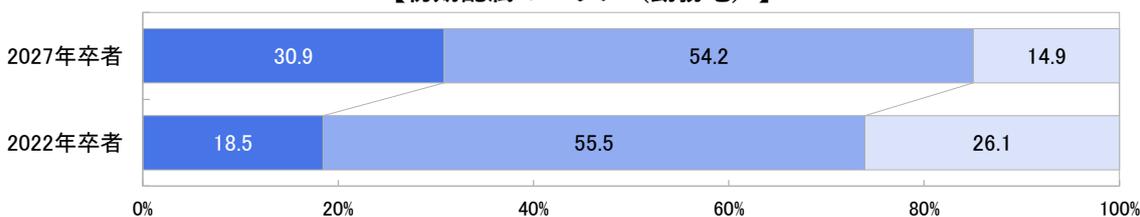
【初期配属の部署】



【初期配属の職種】



【初期配属のエリア(勤務地)】



■内定承諾時の初期配属確約についての考え

- 働く条件が決まっていた方が、複数の企業を比較検討しやすい。 <文系女子>
- 同じ企業内でも部署や職種により業務が大きく異なることが考えられるので、できるだけ決まっているとありがたい。エリアも引っ越しのことを考えると早めの決定が望ましい。 <理系男子>
- 部署は、企業研究ですべてを理解することが難しいため、実際に入社して理解を深めた上で決定したい。職種やエリアは絞った上で、選考に進んでいる。 <文系女子>
- 専門職希望なのでここにこだわりはあるが、他はあればよい程度。 <文系男子>
- 希望はあるが、組織である以上すべての希望が通ることはないと考えている。もし希望部署ではなかった場合、入社後に希望部署に行けるように資格取得など自己研鑽するつもり。 <理系男子>
- 志望企業に入りたいので、どのような環境であるかはあまり気にしない。 <文系女子>